

はいくを^{たの} 楽しもう^{たの} なまえ^{たの})

☆ 声^{こえ}に出^だして 読^よんでみよう。見^みないで 読^よめるようにくり返^{かえ}し 取^とり 組^くみましょう。

□ 古池^{ふるいけ}や 蛙^{かわず} 飛^とびこむ 水^{みず}の 音^{おと} 松尾芭蕉^{まつおばしやう}

ひっそりとしずかな古^{ふる}い池^{いけ}に、かえるが飛^とびこむ水^{みず}の音^{おと}が聞^きこえた。

□ 閑^{しず}かさや 岩^{いわ}にしみ入^いる 蝉^{せみ}の 声^{こえ} 松尾芭蕉^{まつおばしやう}

なんてしずかなだろう。その中^{なか}で、せみの声^{こえ}だけがまるで岩^{いわ}の中^{なか}に しみていくように聞^きこえる。

□ 春^{はる}の 海^{うみ} 終^{ひね}日の たり の たりかな 与謝蕪村^{よさぶそん}

あたたかな春^{はる}の日の海^{うみ}は、一日^{いちにち}中^{ちゆう}、の たちの たりとうなっているよ。

□ 菜^なの 花^{はな}や 月^{つき}は 東^{ひがし}に 日^ひは 西^{にし}に 与謝蕪村^{よさぶそん}

見渡^{みわた}すかぎりの菜^なの花^{はな}はだけ。月^{つき}は東^{ひがし}の空^{そら}からのぼりはじめ、太陽^{たいよう}は西^{にし}に しょうとくしゅみ。

□ 雪^{ゆき}とけて 村^{むら}いつぱいの 子^こどもかな 小林一茶^{こばやしちや}

雪^{ゆき}がとけて、子どもたちがいつせいに外^{そと}に出てきて、村中^{むらぢゆう}にあふれかえっ しょうめい。

□ 痩^やせ蛙^{がえん} まけるな一茶^{いちちや} いねにあら 小林一茶^{こばやしちや}

そののやせだかえるよ。負^まけるなよ。一茶^{いちちや}がいじでおひえんとしてくねん